

市民との共創による 松本ヘルス・ラボ構築事業

松本市

美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本

超少子高齢化人口減少社会への対応

健康寿命延伸都市の創造

「健康」を、20年・30年後を見据えた「**活力ある超高齢社会の源**」と捉える

市民一人ひとりが自立し、健やかに暮らし健康寿命を延伸することであり、世界に先駆けた超少子高齢型人口減少社会における最も基本的な姿である。

市民の健康寿命延伸に向けた取組

- ・地域福祉の拠点として、「福祉ひろば」を全35地区に設置
- ・市民の健康づくりの場として、信州大学等と連携して、平成9年から「松本市熟年体育大学」を実施→県内市町村へ波及
- ・生き甲斐づくり、地域づくりのため、活発な公民館活動を展開
- ・「健康寿命延伸都市」宣言(平成25年)
- ・第1回健康寿命をのばそう！アワード 厚労大臣優秀賞

平成9年から始まった「熟年体育大学」事業は、40歳以上の中高年を対象に、運動プログラムを2年間実施。これまでに2,000人のバイタルデータ等を蓄積。市民の健康意識の醸成に一定の役割を果たしている。一方で、より幅広い年齢層への健康づくりの推進と継続的な支援が課題。



ヘルスケア産業創出の取組(健康づくりを産業面で支える)

- ・平成23年7月、官民連携の場として、松本地域健康産業推進協議会を設立
- ・市長の5つの重要施策の一つに「健康、医療産業の創出」を位置づけ
- ・要介護者・介護者のニーズ調査を実施(平成25年)
- ・健康産業担当課の設置(平成25年)
- ・在宅医療等の医療関係者のニーズ調査(平成26年)

松本地域健康産業推進協議会の設置後から、企業等の製品・サービスの実証に関する問い合わせ等あり、実証の場や産学連携などをコーディネート。今後、行政の単独事業ではなく、民間等と連携した、自立的なコーディネート機関の必要性を検討。



これまでの取組の課題

地域でのヘルスケア産業創出に関する課題

松本地域では、健康寿命の延伸、健康づくりを産業面で支えるモデルをつくるべく、平成23年に、産学官金によるヘルスケアビジネス創出を目指す推進組織として、「松本地域健康産業推進協議会を立ち上げた。

これまでの4年間の協議会活動において、地域でのヘルスケアビジネス創出の場面で、企業の新製品・新サービス開発における課題、行政・協議会の体制づくりの課題、ヘルスケア産業を進める上での市民からのニーズが明らかになってきている。

松本地域健康産業推進協議会の取組

- 設置時期 平成23年7月22日
- 会員数 **163企業・団体**(27年6月現在)
市内・県内・在京企業、医療・福祉関係事業者、大学：信州大学、松本大学、松本歯科大学、松本短期大学、日本銀行松本支店、八十二銀行、長野銀行、松本信用金庫、日本政策金融公庫、安曇野市、塩尻市、松本市等
- 事業内容
・健康産業セミナー開催、実用化検証の実施、市民ニーズ調査、世界健康首都会議の開催等

地域におけるヘルスケア産業創出・育成における課題と市民ニーズ

企業の課題

- ・地域に入り込んで、地域や消費者のニーズを的確に捉えた製品・サービスづくりをしたい。
- ・ヘルスケア分野では製品・サービスにエビデンスが求められているが、実証の場の確保が困難で、研究開発の障壁になっている。
- ・マーケティング調査に必要なモニター層の選択、確保が困難。

行政・協議会事務局の課題

- ・産業振興には人的・時間的・予算的な制約が大きく、持続性に乏しい。
- ・ニーズ調査、ワークショップの進行等、マーケティング分野の専門的な知識が不足。
- ・行政内の決定プロセスが煩雑で、スピード感に欠ける。

市民ニーズ

- ・産業振興だけでなく、ヘルスケアビジネスの創出により、実際に健康を実感したい。
- ・高齢になっても社会に貢献し続けたい。
- ・健康づくりの機会がもっと必要だ。

地域とともにマーケティングを行う場の設置とそのビジネス化が必要

市民の健康づくり、社会参加と産業化との両立

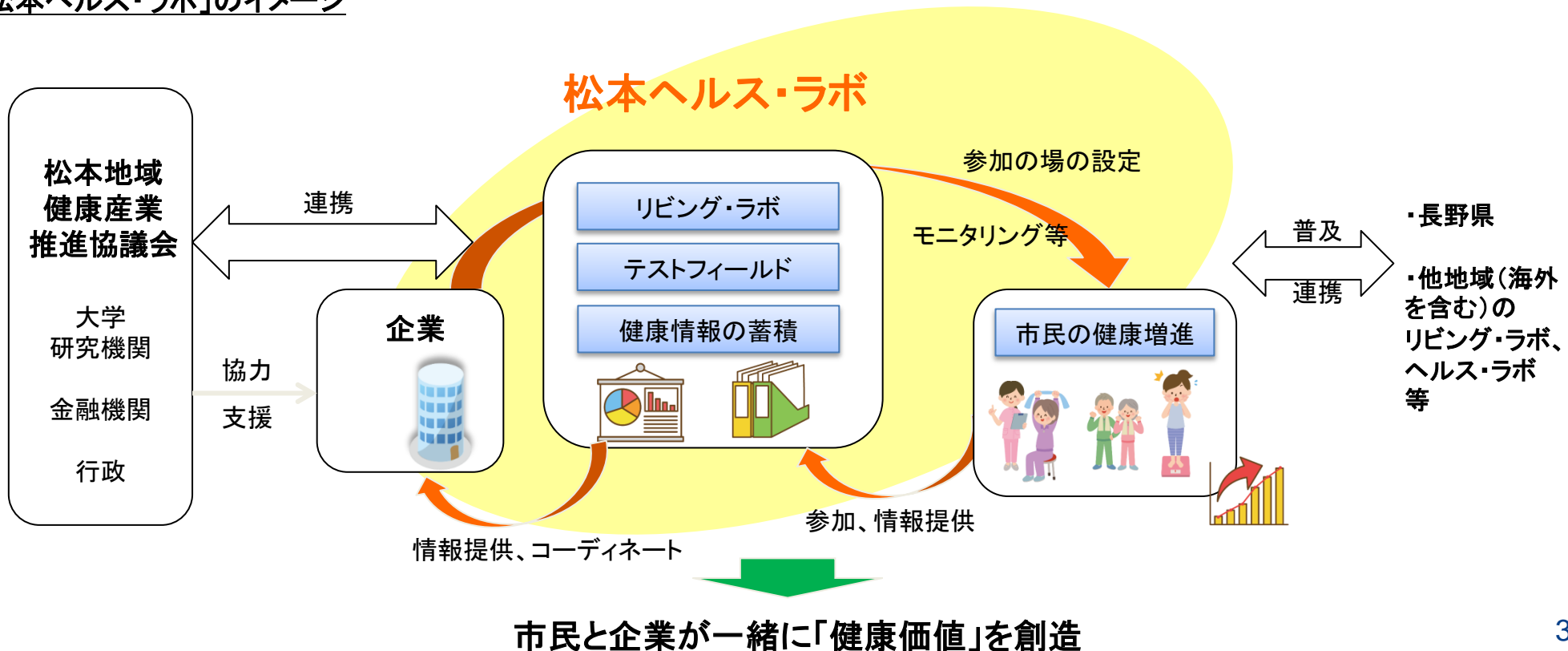
市民との共創による松本ヘルス・ラボ構築について①

市民と企業の共創による「松本ヘルス・ラボ」の実現

多くの市民を参加し、健康への関心を高め、市民の健康づくりと市民ニーズの視点から新製品・サービスの提案や実用化検証に参加することにより、健康に対する市民意識の醸成とヘルスケアビジネスの振興を同時に実現することを目指す。

それに向けて、市民と企業の共創によるヘルスケアビジネス創出基盤として、①リビング・ラボ機能、②テストフィールド機能、③市民の健康増進・社会参加の3つの機能を有する「松本ヘルス・ラボ」を構築し、ノウハウ等を全国の自治体に向けて発信する。

「松本ヘルス・ラボ」のイメージ



市民との共創による松本ヘルス・ラボ構築について②

経済産業省委託事業(健康寿命延伸産業創出推進事業)における実施内容 (委託先: SCOP 事業費(予定): 2,500万円)

(1) 松本ヘルス・ラボ機能の実証(ヘルスケアビジネスの創出支援)

企業向けサービス

- 共創の場(リビング・ラボ)の提供
- 実証の場(テストフィールド)の提供
- 相談の場の提供

会員向けサービス

- 健康増進情報の提供
- 健康情報蓄積サービスの提供
- 健康増進支援

(2) ヘルス・ラボ運営 基盤構築

- ・ 運営規約、会員規約等の整備
- ・ 運営マニュアルの作成



(3) 健康データ活用 基盤構築、運用

蓄積された健康データを健康増進、ビジネス創出に活用するための基盤構築と運用



(4) プロモーション 手法の構築

会員(※1)の増加に向けたプロモーション手法の検討、構築、実施



(5) 収益モデルの構築

ヘルス・ラボが持続的・自立的に継続するための、収益モデルの実証



※1 会員:ヘルス・ラボに登録している市民

日本各地域において国民の健康増進とヘルスケアビジネスの創出の循環を生み出す仕組みを創出

松本ヘルスバレー構想の実現に向けて

松本ヘルスバレー構想の実現

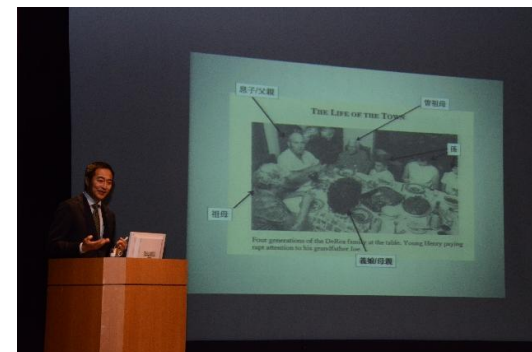


松本ヘルスバレー構想

今後のスケジュール

- 平成27年6月中 委託事業契約締結
- 7月～ 市民へのプロモーション
企業等とのヘルス・ラボ活用の検討
- 平成28年2月末 成果報告書提出

事業成果を県内外へ発信



世界健康首都会議での情報発信(27年度は11月5日、6日に開催)(写真:26年度ハーバード大学イチロー・カワチ氏による基調講演)